

150本の桜が咲き誇る

◆SAKURAまつり

3月23日から4月7日まで、石橋文化センターでSAKURAまつりが開催されました。見頃を迎えた約150本の桜など、春の花を目当てに多くの人が来場しました。週末には、桜を背景に野外コンサートが開かれた他、園内に隠されたひらがなを探し、並び替えて言葉を完成させるイベントも。子どもと一緒に楽しむ家族連れでにぎわいました。



満開の桜を見に、たくさんの方が訪れました

石垣が美しい姿に

◆久留米城跡石垣を除草

3月末、久留米城跡石垣の除草作業が終わりまりました。堀に面した南側は、これまで高所作業車などが寄りつけず、多くのツタや雑草が茂っていました。石垣の上からロープで降りた作業員が手作業で除草し、美しい石垣の姿を取り戻しました。友人と桜を見に訪れていた山田久美子さん（東町）は「きれいな石垣に、桜の花がよく合いますね」と話していました。



(上) 桜の似合う美しい石垣が現れました
(右) 除草作業の様子

地元ガイド 偉人ゆかりの地案内

◆久留米ほとめき歩き・春編

地元に住むボランティアガイドが半日でまちの名所を案内する「久留米ほとめき歩き」。春編が3月23日から4月13日まで、9コースで開催されました。南薫校区・五穀神社コースでは、からくり儀右衛門こと田中久重の生誕地や、久留米餅の母・井上伝ゆかりの地などを案内。参加した平島誠一郎さん（江戸屋敷）は「地元ならではの話が聞けて、歴史がよく分かりました」と話しました。



田中久重の生誕地では井上伝との出会いを紙芝居で紹介

来館者10万人達成
◆青木繁旧居

3月23日、荘島町の青木繁旧居の来館者数が10万人に達しました。久留米が誇る洋画家・青木繁が17歳まで過ごした家で、地域住民で作る「青木繁旧居保存会」が管理運営しています。平成15年3月の開館から16年目。10万人目は、家族で訪れた高橋裕子さん（宮ノ陣）。同保存会の荒木康博会長と中島年隆副市長から認定証と代表作の複製画が手渡されました。



保存会の荒木会長（右）、中島副市長（左）と一緒に記念撮影する高橋さん家族

市政の動き

市制施行から130周年
記念式典を開催

久留米市は明治22（1889）年4月、全国で最初に市制を施行した31の市の一つとして誕生しました。今年で130周年を迎えることから、4月3日、久留米シティプラザで記念式典を開催。市民の皆さんなど約1000人が参加し、今後のまちづくりへの思いを新たにしました。式典で、大久保勉市長は「この1年が久留米市の新たな未来を創造するスタートの年となるよう、『住み



式典には、くるめふるさと大使などゆかりのある多くの皆さんが出席しました

新学期は新校舎で
篠山小学校完成

平成28年9月に始まった篠山小学校の建替え工事が終わり、4月から新しい校舎で授業が始まりました。新校舎は、鉄筋コンクリート造の4階建てで、延べ面積は約7160㎡。建設費は約23億1000万円です。体育館と学童保育所を同じ建物に造ることで敷地を有効活用しました。また、エレベーターを設置するなど、バリアフリーにも配慮しています。◎学校施設課（☎0942・30・9214、FAX0942・30・9719）



敷地内に市指定文化財の旧三島家長屋門があります

やすさ日本一・久留米」の実現に全力でまい進していきます」とあいさつ。商工業や農業、教育などの分野での発展に貢献した82人に感謝状を贈りました。これまでの歩みを振り返る記念映像では、市の偉人や歴史を紹介。久留米児童合唱団とCity Winds久留米市民吹奏楽団（NPO）も式典を盛り上げました。◎総務課（☎0942・30・9052、FAX0942・30・9706）



久留米警察署の向かいに設置されたポート

くるクルが
さらに使いやすく

現在1万人が会員登録し、年間で延べ6万2000人以上が使っている、コミュニティサイクル「くるクル」が、さらに使いやすくなりました。11カ所目となる貸出・返却用ポートを久留米警察署前に設置。8台まで収納できます。貸出料金の支払いも便利に。JR・西鉄久留米駅のポートは、硬貨とクレジットカードに加え、1000円紙幣と交通系ICカードも使えるようになりました。◎交通政策課（☎0942・30・9092、FAX0942・30・9714）